

講演要旨の見本 (原寸)
(約 70%に縮小されます.)

補助刺激分子の構造を基にした認識機構

加藤太郎, 細川花子
(熊大院医薬)

上下左右, 余白を 2.5 cm あけてください. 本文の 2 段の間隔は 1cm あけてください.

免疫反応にはT細胞の活性化が必要であり、T細胞の活性化には2つのシグナルが必要である。シグナル1は抗原提示細胞(APC)上の主要組織適合抗原(MHC)とT細胞上のT細胞受容体(TCR)との結合の結果起こる抗原特異的なものである。シグナル2は補助刺激とも呼ばれ、APC上のB7分子とT細胞上のCD28との結合の結果起こる抗原非特異的なものである。シグナル1のみの存在下ではそのT細胞は免疫寛容を導入し、シグナル2のみの場合はT細胞に変化が起こらない。CTLA-4 Fcを用いたB7とCD28の結合の阻害は、移植片拒絶反応を抑制する。我々は、補助刺激分子の構造を基にした認識機構を解明するために、B7-1結晶及びB7-1/CTLA-4複合体結晶を各々3.0分解能で解析を行った。

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

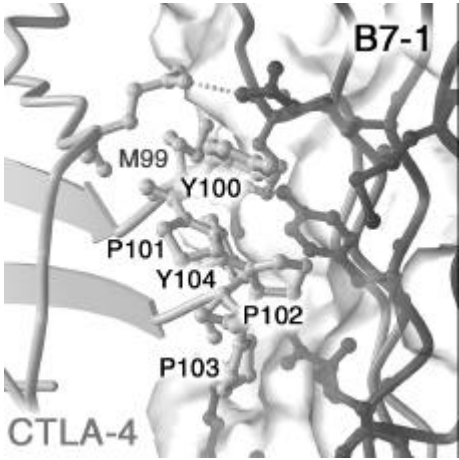


図 B7-1/CTLA-4 複合体の結合部位